

定期報告徴収により取得した情報の報告

平成 2 8 年 8 月 2 6 日 (金)

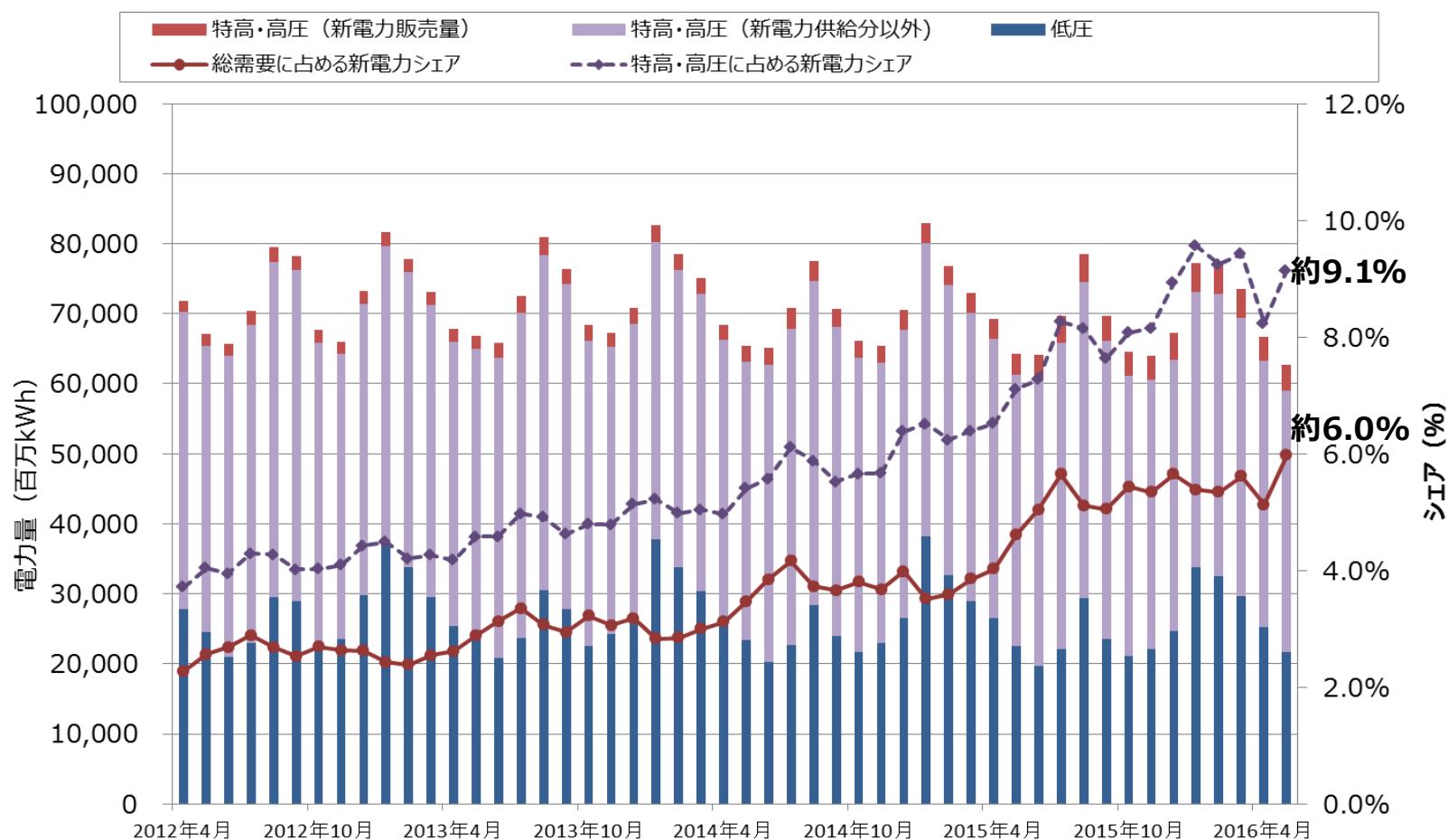


電力・ガス取引監視等委員会
Electricity and Gas Market Surveillance Commission

1. 新電力の市場シェア

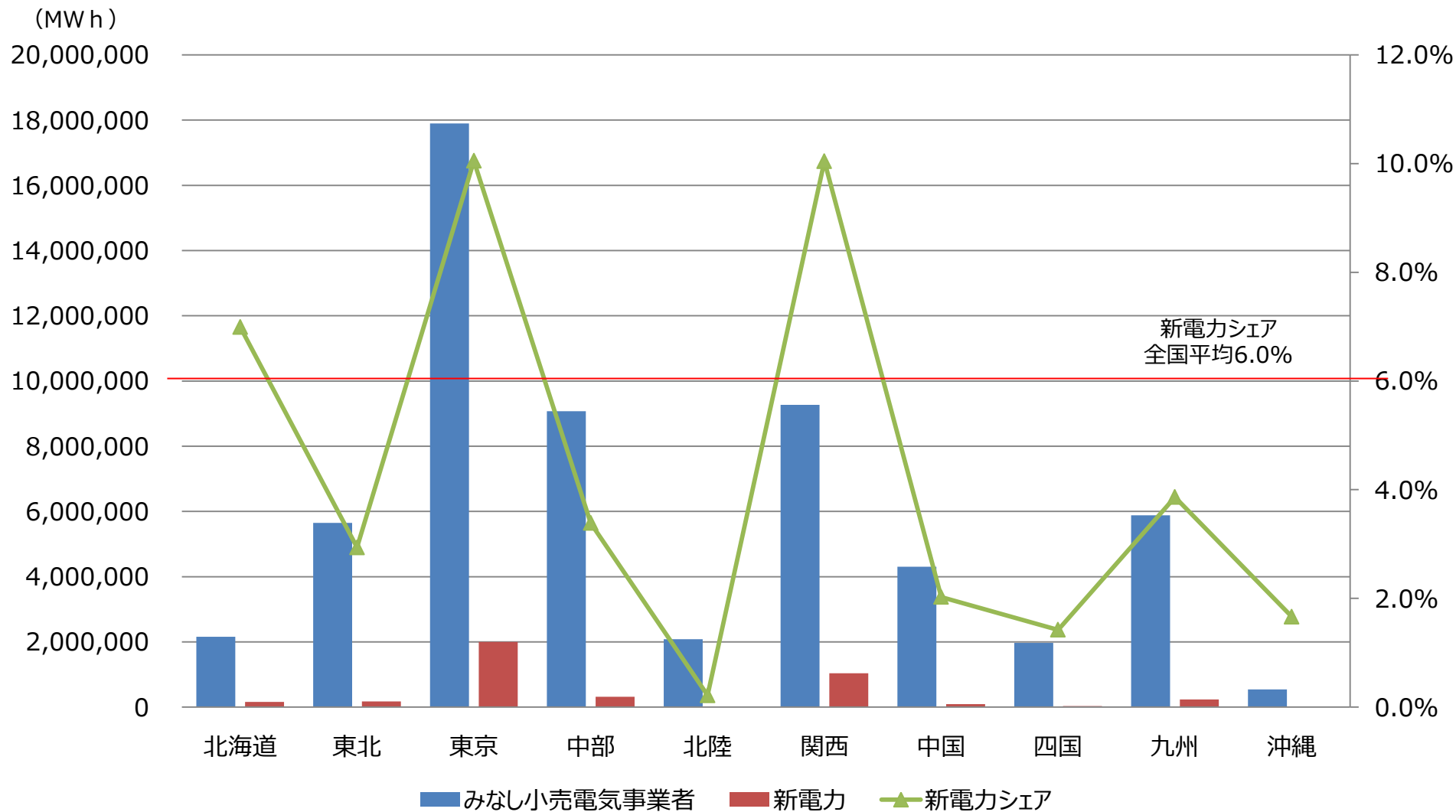
- 前月と比較して新電力の販売電力量シェアは増加しており、2016年5月時点において、特高・高压分野における新電力シェアは約9.1%（前月：約8.4%）、総需要に占める新電力の市場シェアは約6.0%（前月：約5.3%）となっている。

新電力の市場シェア（2012年4月～2016年5月）



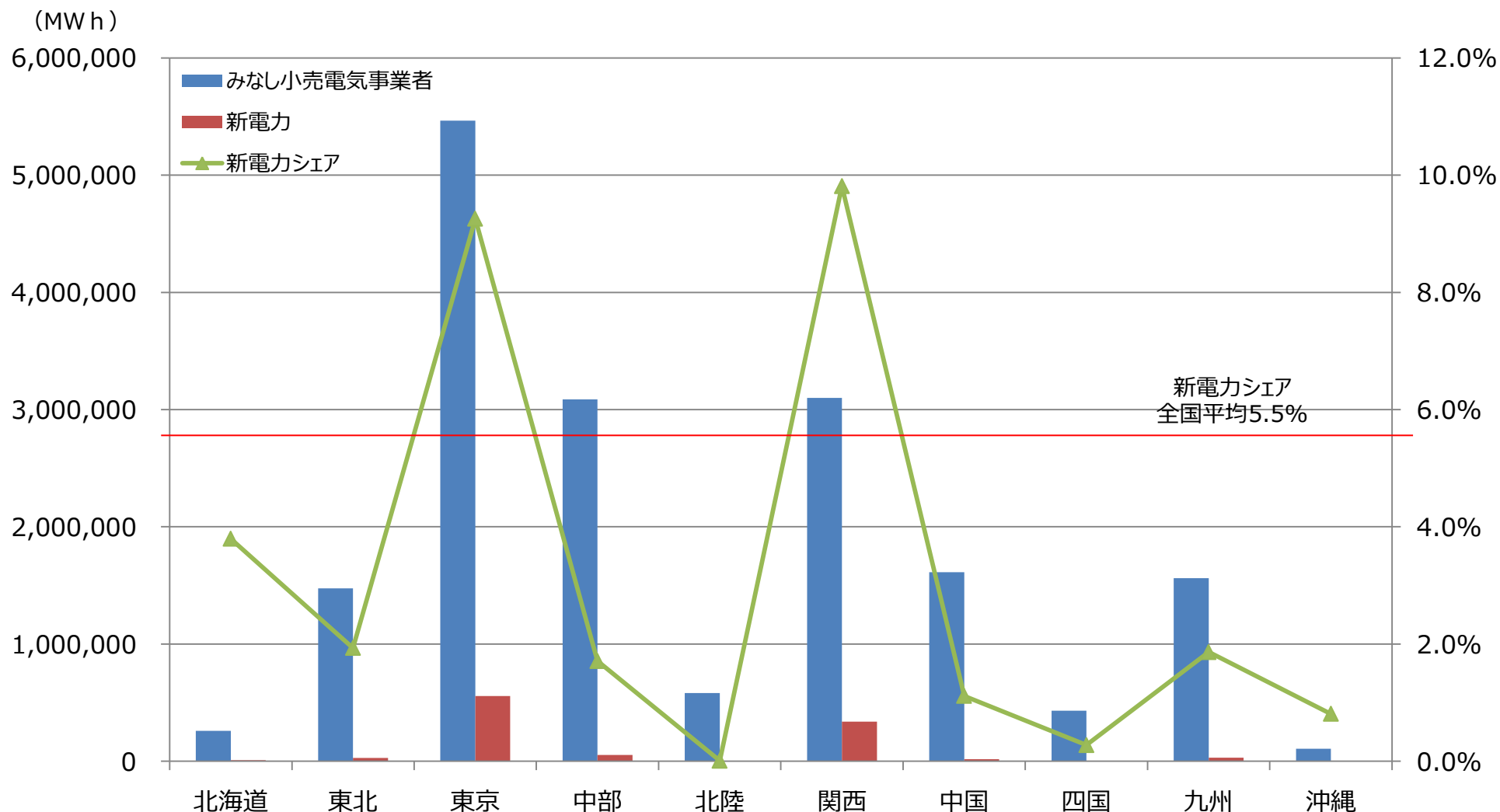
2-1. 新電力の地域別シェア（全電圧）

- 販売電力量の新電力シェアは全国平均で約6.0%となっており、平均を超える地域は北海道(約7.0%)、東京(10.1%)、関西(10.0%)の3地域となっている。



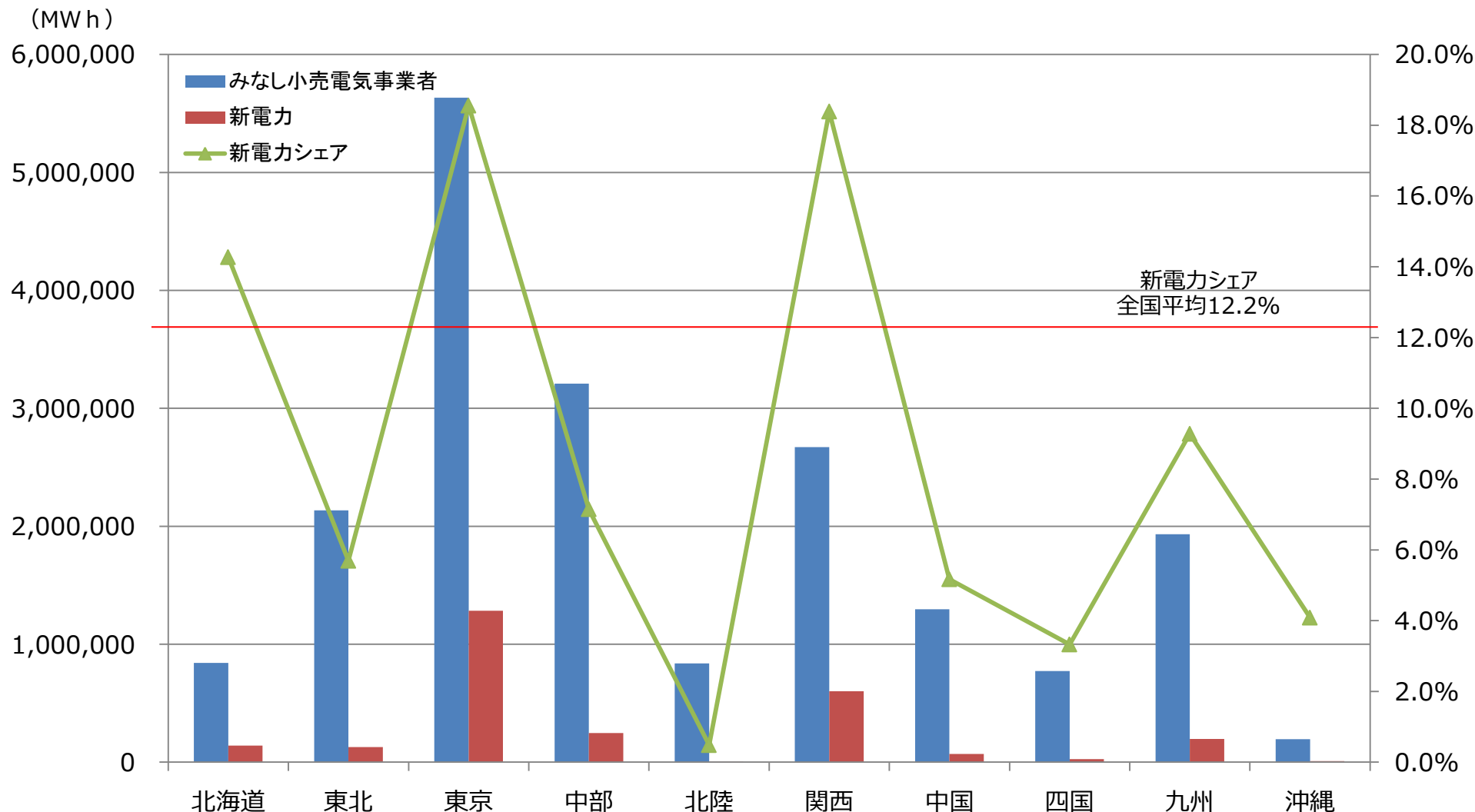
2-2. 新電力の地域別シェア（特別高圧）

- 販売電力量の新電力シェア（特別高圧）は全国平均で約5.5%となっており、平均を超える地域は東京(約9.3%)と関西(約9.8%)の2地域となっている。



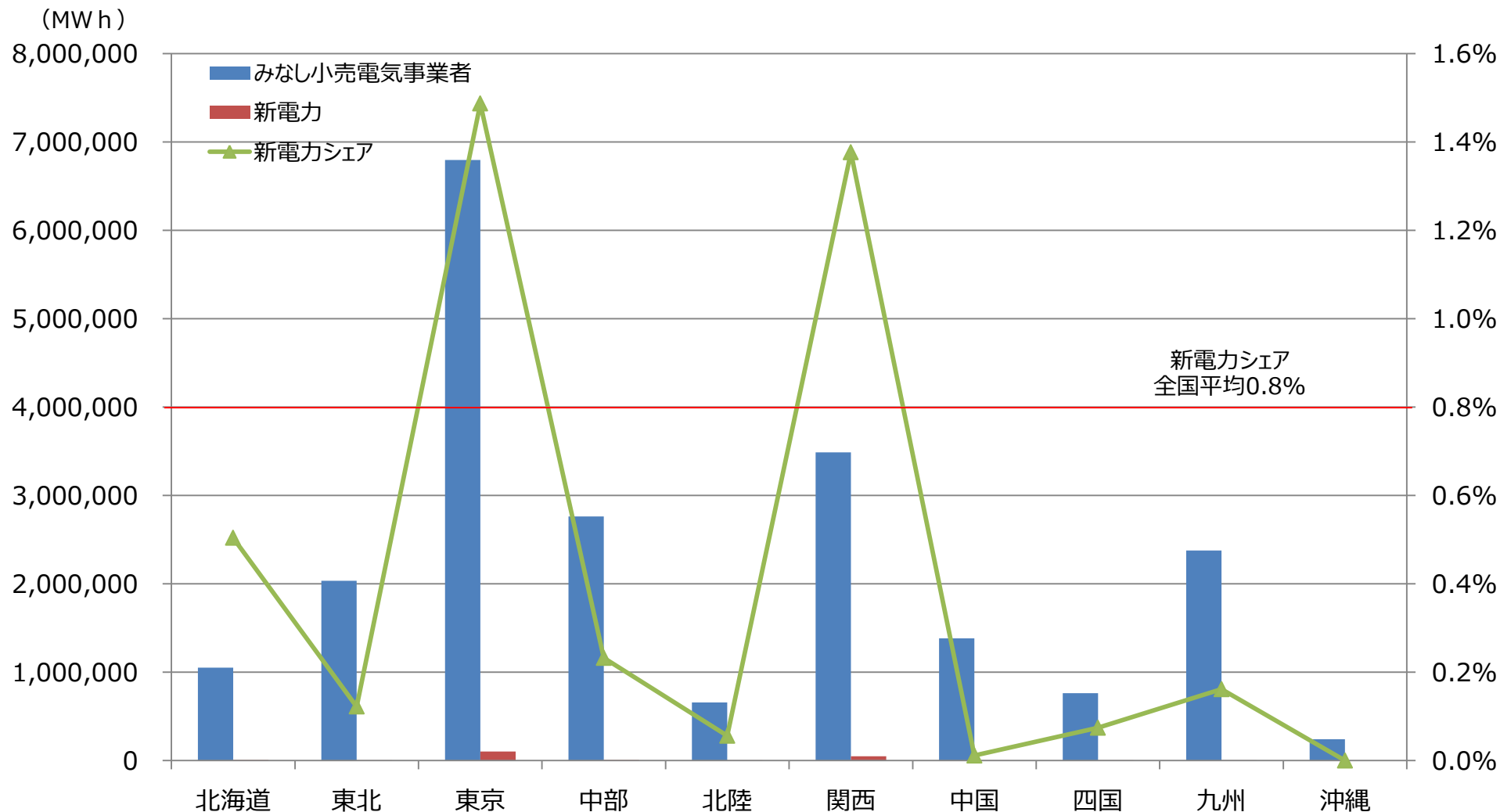
2-3. 新電力の地域別シェア（高圧）

- 販売電力量の新電力シェア（高圧）は全国平均で約12.2%となっており、平均を超える地域は北海道(約14.3%)、東京(18.6%)、関西(18.4%)の3地域となっている。



2-4. 新電力の地域別シェア（低圧）

- 販売電力量の新電力シェア（低圧）は全国平均で約0.8%となっており、平均を超える地域は東京(約1.5%)と関西(約1.4%)の2地域となっている。



3-1. 平成28年5月の新電力の販売電力量シェア（全電圧）

順位	事業者名	販売電力量(MWh単位)	新電力シェア
1	株式会社エネット	892,455	23%
2	株式会社 F-Power	510,386	14%
3	丸紅新電力株式会社	266,588	8%
4	J X エネルギー株式会社	189,142	5%
5	オリックス株式会社	145,945	4%
6	サミットエナジー株式会社	119,677	3%
7	テプコカスタマーサービス株式会社	113,806	3%
8	日本テクノ株式会社	113,187	3%
9	新日鉄住金エンジニアリング（株）	89,696	3%
10	伊藤忠エネクス株式会社	82,175	2%
11	ミツウロコグリーンエネルギー株式会社	76,051	2%
12	ダイヤモンドパワー株式会社	66,463	2%
13	エネサーブ株式会社	63,672	2%
14	昭和シェル石油株式会社	61,102	2%
15	東京ガス株式会社	50,519	1%
16	イーレックス株式会社	39,126	1%
17	王子・伊藤忠エネクス電力販売株式会社	36,296	1%
18	大和ハウス工業株式会社	30,678	1%
19	大阪瓦斯株式会社	28,186	1%
20	株式会社エナリス・パワー・マーケティング	24,341	1%
	新電力上位20社 合計	3,335,502	82%
	新電力 合計	4,053,610	-

3-2. 平成28年5月の新電力の販売電力量シェア（電圧別）

順位	特別高圧	高圧	低圧
1	株式会社エネット	株式会社エネット	東京ガス株式会社
2	丸紅新電力株式会社	株式会社 F-Power	大阪瓦斯株式会社
3	株式会社 F-Power	丸紅新電力株式会社	J X エネルギー株式会社
4	J X エネルギー株式会社	オリックス株式会社	K D D I 株式会社
5	新日鉄住金エンジニアリング（株）	日本テクノ株式会社	株式会社ケイ・オプティコム
6	サミットエナジー株式会社	J X エネルギー株式会社	株式会社東急パワーサプライ
7	ダイヤモンドパワー株式会社	テプコカスタマーサービス株式会社	大阪いずみ市民生活協同組合
8	テプコカスタマーサービス株式会社	サミットエナジー株式会社	株式会社ジェイコムウエスト
9	アーバンエナジー株式会社	伊藤忠エネクス株式会社	北海道瓦斯株式会社
10	エネサーブ株式会社	ミツウロコグリーンエネルギー株式会社	株式会社サイサン
11	株式会社シナジアパワー	昭和シェル石油株式会社	東燃ゼネラル石油株式会社
12	パナソニック株式会社	イーレックス株式会社	静岡ガス&パワー株式会社
13	昭和シェル石油株式会社	エネサーブ株式会社	株式会社ジェイコムイースト
14	凸版印刷株式会社	王子・伊藤忠エネクス電力販売株式会社	HTBIエナジー株式会社
15	大阪瓦斯株式会社	新日鉄住金エンジニアリング（株）	株式会社パネル
16	ミツウロコグリーンエネルギー株式会社	ダイヤモンドパワー株式会社	サミットエナジー株式会社
17	キャノンマーケティングジャパン株式会社	大和ハウス工業株式会社	中央電力エナジー株式会社
18	出光グリーンパワー株式会社	株式会社エナリス・パワー・マーケティング	イーレックス・スパーク・マーケティング株式会社
19	東日本旅客鉄道株式会社	出光グリーンパワー株式会社	ミツウロコグリーンエネルギー株式会社
20	株式会社グローバルエンジニアリング	中央電力エナジー株式会社	昭和シェル石油株式会社

4. 卸電力取引所取引のサマリー（2016年7月）

- 2016年7月の卸電力取引所取引のサマリーは、次のとおり（括弧内は前年同時期の値）。

		対象期間	参考		
		2016年7月	2016年4月	2016年5月	2016年6月
JEPX取引会員数※1		115社	111社	111社	112社
スポット市場	売り入札量	90億kWh (94億kWh)	61億kWh (65億kWh)	61億kWh (62億kWh)	69億kWh (69億kWh)
	買い入札量	49億kWh (31億kWh)	39億kWh (25億kWh)	42億kWh (27億kWh)	44億kWh (26億kWh)
	約定量	19億kWh (15億kWh)	14億kWh (10億kWh)	14億kWh (12億kWh)	16億kWh (12億kWh)
	平均約定価格 (システムプライス)	8.12円/kWh (11.22円/kWh)	6.82円/kWh (11.61円/kWh)	6.89円/kWh (11.00円/kWh)	7.81円/kWh (11.86円/kWh)
	東西市場分断発生率	66.1% (49.1%)	71.6% (56.6%)	73.4% (46.9%)	64.3% (14.0%)
時間前市場※2	約定量	1.5億kWh	0.03億kWh	0.06億kWh	0.97億kWh
先渡市場	約定量、約定件数	0.08億kWh、18件 (0.03億kWh、8件)	0.27億kWh、4件 (0.00億kWh、0件)	0.05億kWh、5件 (0.01億kWh、3件)	0.03億kWh、4件 (0.01億kWh、4件)

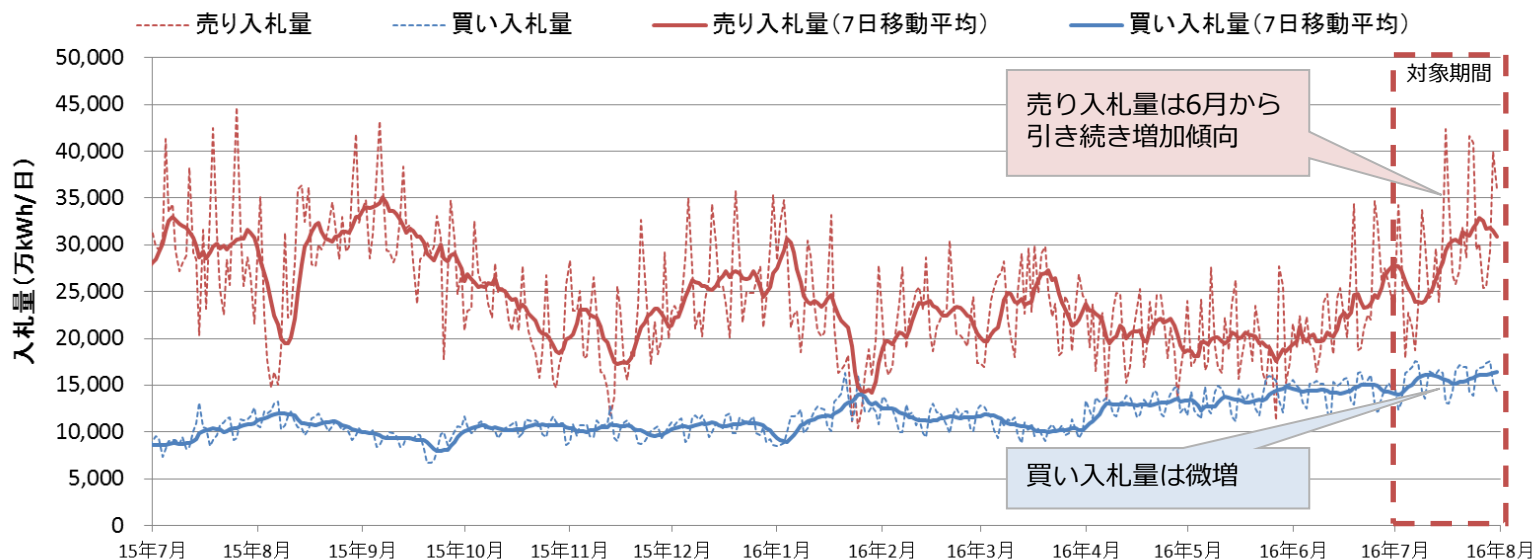
※1 7月以降に加入した会員：株式会社アメニティ電力（7月5日）、全農エネルギー株式会社（7月8日）、みやまスマートエネルギー株式会社（7月25日）

※2 2016年4月より、時間前市場は4時間前市場（シングルプライスオークション方式）から1時間前市場（ザラバ方式）となった。市場が異なるため、昨年同時期の値は掲載していない。

5. スポット市場の入札量

- 2016年7月におけるスポット市場の入札量は、売り入札量90億kWh、買い入札量49億kWhであった。売り入札量は6月から引き続き増加傾向にあり、買い入札量は微増している。
- 前年同時期対比は、売り入札量は横ばい、買い入札量は1.6倍となっている。

スポット市場 入札量の推移
(2015年7月1日～2016年7月31日)



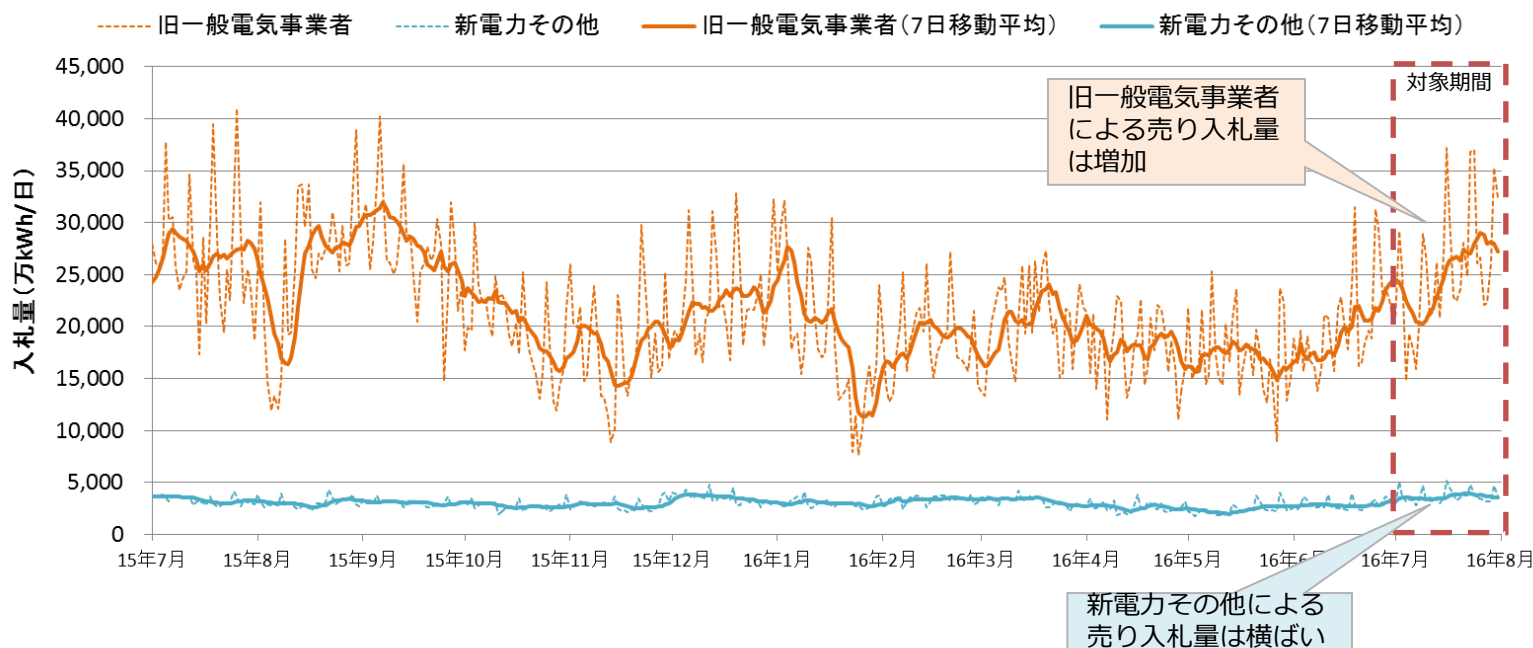
主要データ

売り入札量 (2016年7月1日-2016年7月31日)	90 億kWh
売り入札量の前年同時期対比 (対2015年7月1日-2015年7月31日)	1.0 倍
買い入札量 (2016年7月1日-2016年7月31日)	49 億kWh
買い入札量の前年同時期対比 (対2015年7月1日-2015年7月31日)	1.6 倍

6. 事業者区分別のスポット市場売り入札量

- 2016年7月におけるスポット市場の売り入札量は、旧一般電気事業者は79億kWh、新電力その他の事業者は11億kWhであった。旧一般電気事業者による売り入札量は6月以降増加傾向である一方、新電力その他の事業者による売り入札量は横ばいに推移しており、スポット市場の売り入札量の大部分が旧一般電気事業者によるものとなっている（全体の約88%）。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者は0.9倍、新電力その他の事業者は1.1倍となっている。

スポット市場 売り入札量の推移
(2015年7月1日～2016年7月31日)



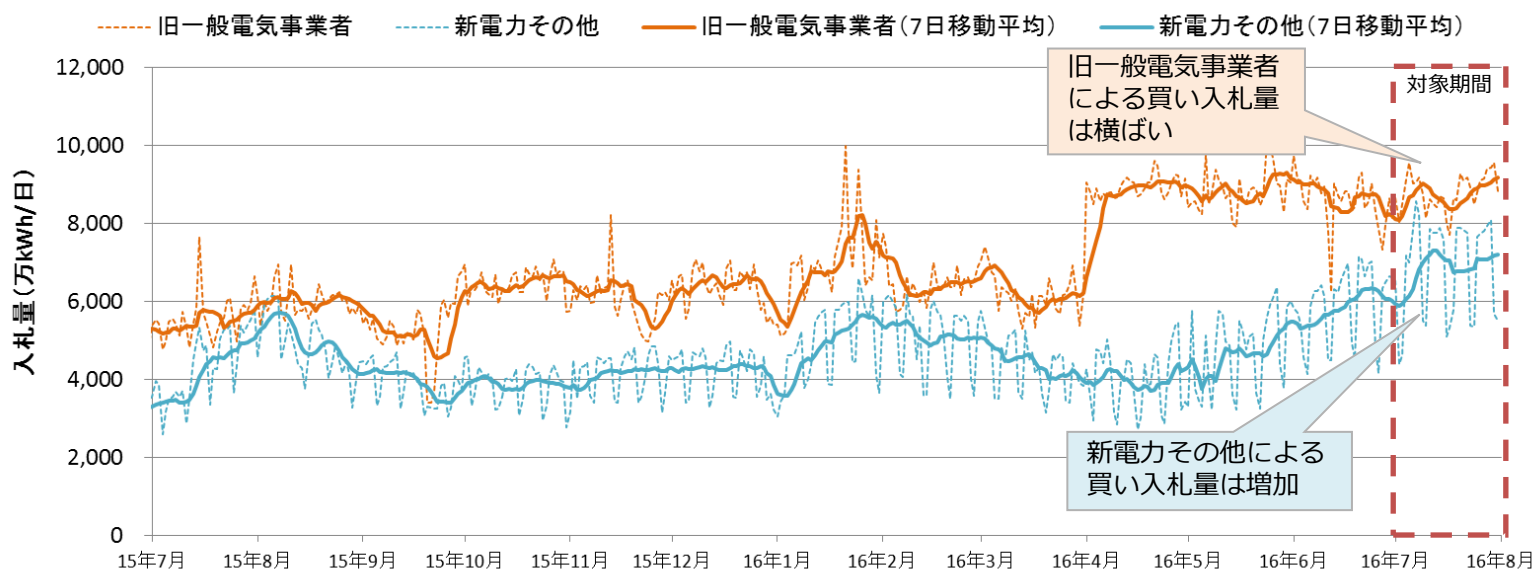
主要データ

旧一般電気事業者による 売り入札量 (2016年7月1日-2016年7月31日)	79 億kWh
旧一般電気事業者による 売り入札量の前年同時期対比 (対2015年7月1日-2015年7月31日)	0.9 倍
新電力その他の事業者による 売り入札量 (2016年7月1日-2016年7月31日)	11 億kWh
新電力その他の事業者による 売り入札量の前年同時期対比 (対2015年7月1日-2015年7月31日)	1.1 倍

7. 事業者区分別のスポット市場買い入札量

- 2016年7月におけるスポット市場の買い入札量は、旧一般電気事業者は27億kWh、新電力その他の事業者は21億kWhであった。旧一般電気事業者による買い入札量は 2016年4月に入ったタイミングで増加して以降、ほぼ横ばいに推移している。また、新電力その他の事業者による買い入札量は、5月以降増加しており、7月も継続して増加傾向となっている。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者、新電力その他の事業者ともに1.6倍となっている。

スポット市場 買い入札量の推移
(2015年7月1日～2016年7月31日)



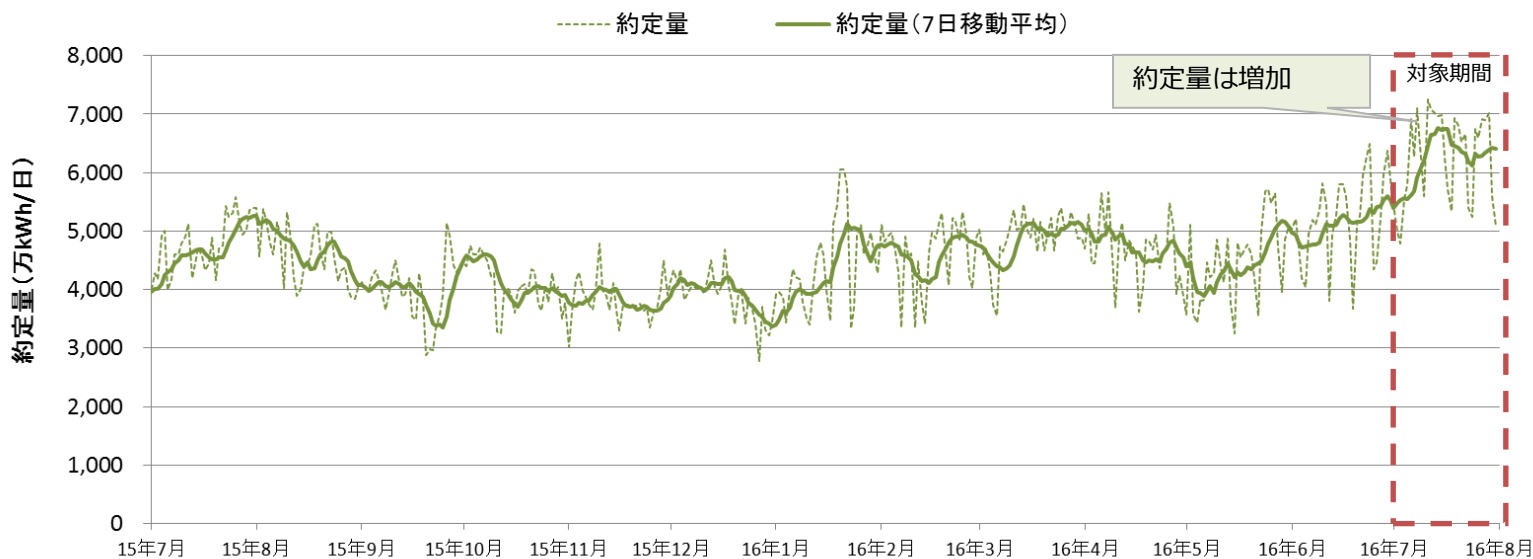
主要データ

旧一般電気事業者による 買い入札量 (2016年7月1日-2016年7月31日)	27 億kWh
旧一般電気事業者による 買い入札量の前年同時期対比 (対2015年7月1日-2015年7月31日)	1.6 倍
新電力その他の事業者による 買い入札量 (2016年7月1日-2016年7月31日)	21 億kWh
新電力その他の事業者による 買い入札量の前年同時期対比 (対2015年7月1日-2015年7月31日)	1.6 倍

8. スポット市場の約定量

- 2016年7月におけるスポット市場の約定量の合計は19億kWhであった。約定量は5月中旬以降増加しており、7月も継続して増加傾向となっている。
- 前年同時期対比は1.3倍となっている。

スポット市場 約定量の推移
(2015年7月1日～2016年7月31日)



主要データ

約定量 (2016年7月1日～2016年7月31日)
19 億kWh
約定量の前年同時期対比 (対2015年7月1日～2015年7月31日)
1.3 倍

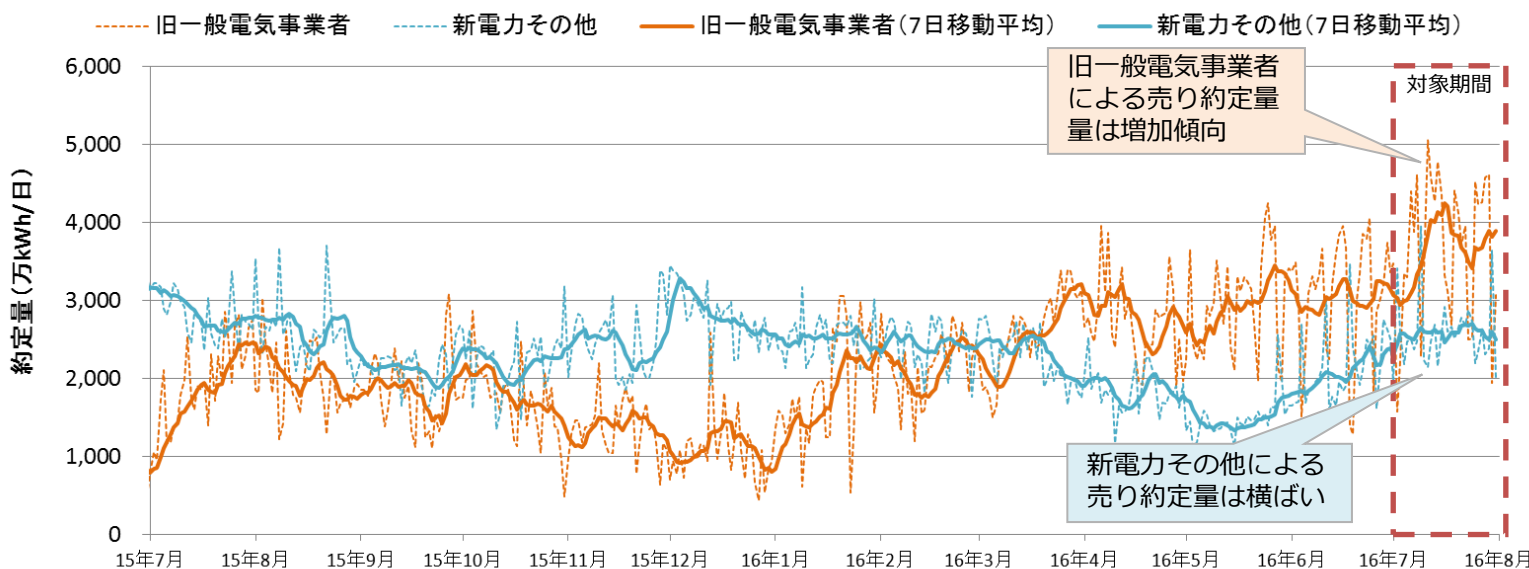
9. 事業者区分別のスポット市場売り約定量

- 2016年7月におけるスポット市場の売り約定量は、旧一般電気事業者は11億kWh、新電力その他の事業者は8億kWhであった。旧一般電気事業者による売り約定量は1月以降増加しており、7月も継続して増加傾向であった。新電力その他の事業者による売り約定量は5月中旬より増加傾向にあったものの、7月に入っからは横ばいに推移している。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者が1.9倍、新電力その他の事業者は0.9倍となっている。

スポット市場 売り約定量の推移
(2015年7月1日～2016年7月31日)

主要データ

旧一般電気事業者による 売り約定量 (2016年7月1日～2016年7月31日)	11 億kWh
旧一般電気事業者による 売り約定量の前年同時期対比 (対2015年7月1日～2015年7月31日)	1.9 倍
新電力その他の事業者による 売り約定量 (2016年7月1日～2016年7月31日)	8 億kWh
新電力その他の事業者による 売り約定量の前年同時期対比 (対2015年7月1日～2015年7月31日)	0.9 倍



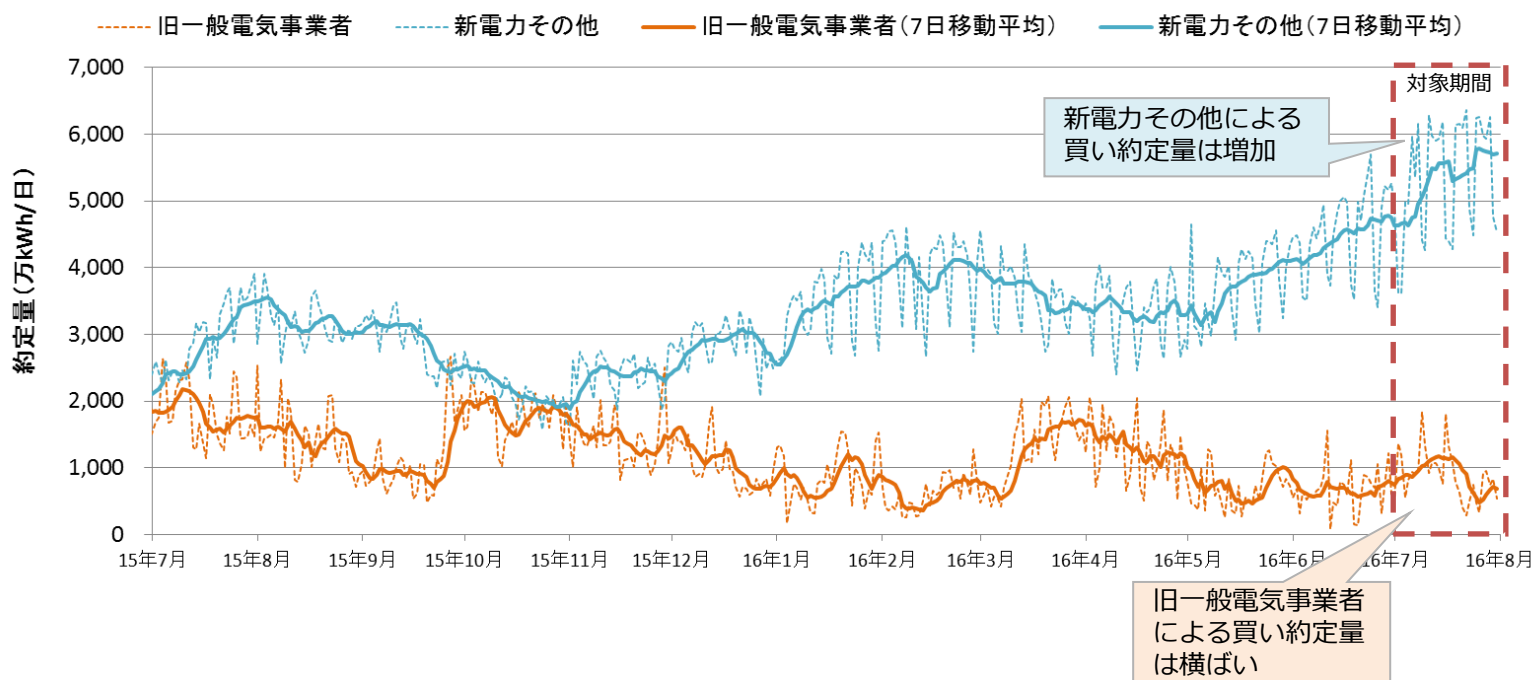
10. 事業者区分別のスポット市場買い約定量

- 2016年7月におけるスポット市場の買い約定量は、旧一般電気事業者は3億kWh、新電力その他の事業者は17億kWhであった。2016年5月以降、新電力その他による買い約定量が増加している一方で、旧一般電気事業者による買い約定量はほぼ横ばいに推移しており、それぞれの約定量の差が大きくなっている。
- 前年同時期対比は、旧一般電気事業者が0.5倍、新電力その他の事業者は1.8倍となっている。

スポット市場 買い約定量の推移
(2015年7月1日～2016年7月31日)

主要データ

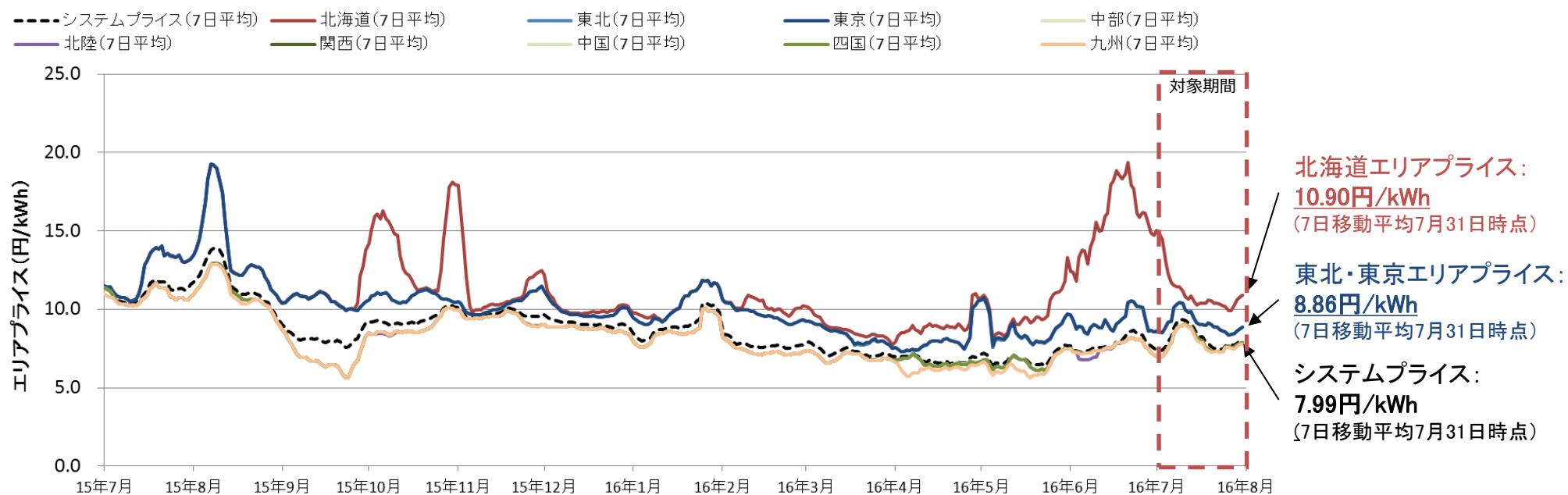
旧一般電気事業者による 買い約定量 (2016年7月1日～2016年7月31日)	3 億kWh
旧一般電気事業者による 買い約定量の前年同時期対比 (対2015年7月1日～2015年7月31日)	0.5 倍
新電力その他の事業者による 買い約定量 (2016年7月1日～2016年7月31日)	17 億kWh
新電力その他の事業者による 買い約定量の前年同時期対比 (対2015年7月1日～2015年7月31日)	1.8 倍



1 1. スポット市場のエリアプライス

- 2016年7月におけるエリアプライス（7日移動平均）の推移を見ると、6月に比べると北海道エリアプライスとその他のエリアとの値差は小さくなっているものの、依然として北海道・東北・東京エリアにおいては、システムプライスとの値差が生じている。

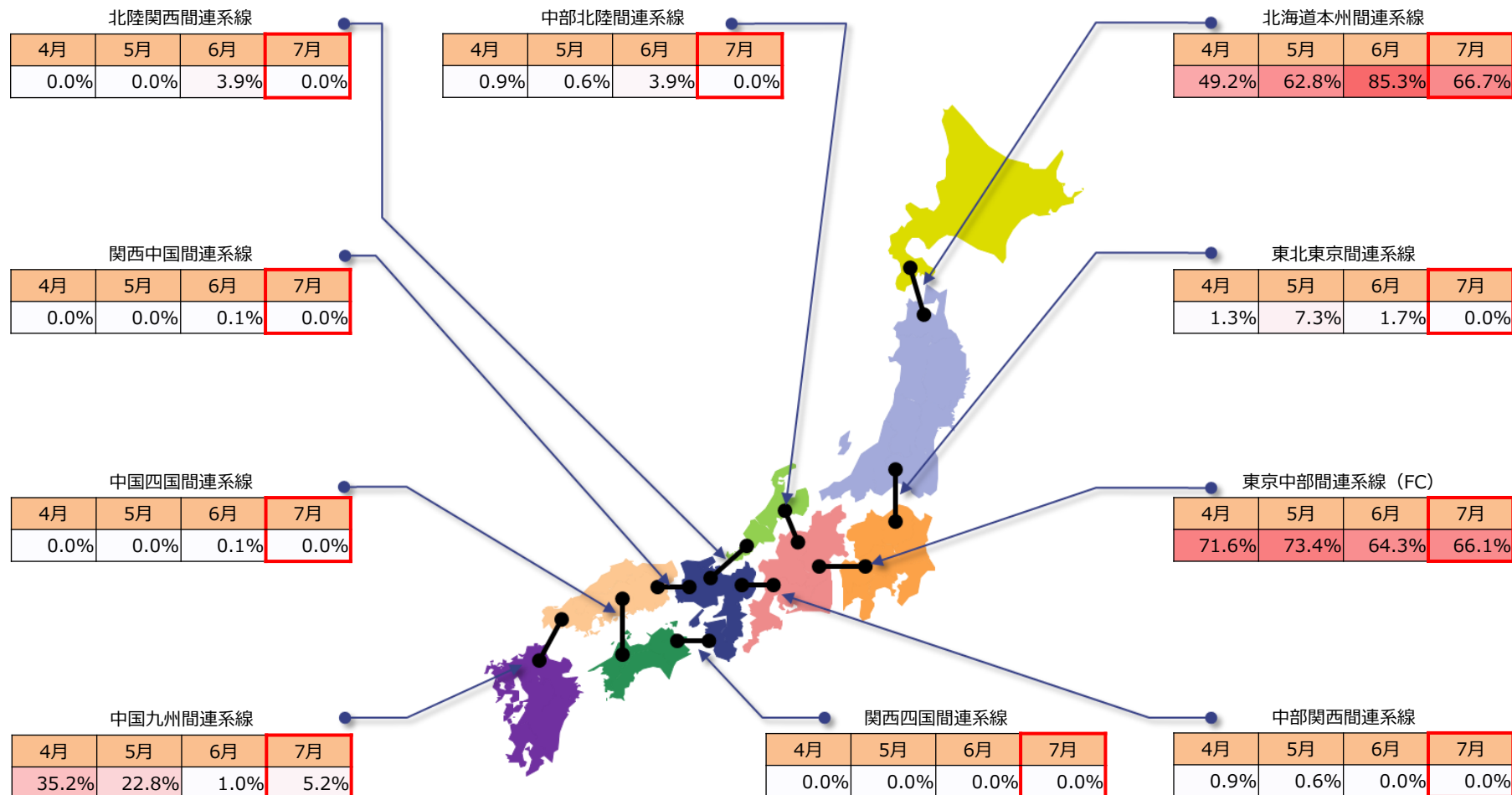
スポット市場 エリアプライスの推移
(2015年7月1日～2016年7月31日)



1 2. 各地域間のスポット市場分断状況

- 各地域の市場分断状況を見ると、2016年7月においては、北海道本州間連系線は66.7%、東京中部間連系線は66.1%の頻度で分断が発生。また、中国九州連系線においても、5.2%の分断率となっている。

各地域間連系線の月別分断発生率



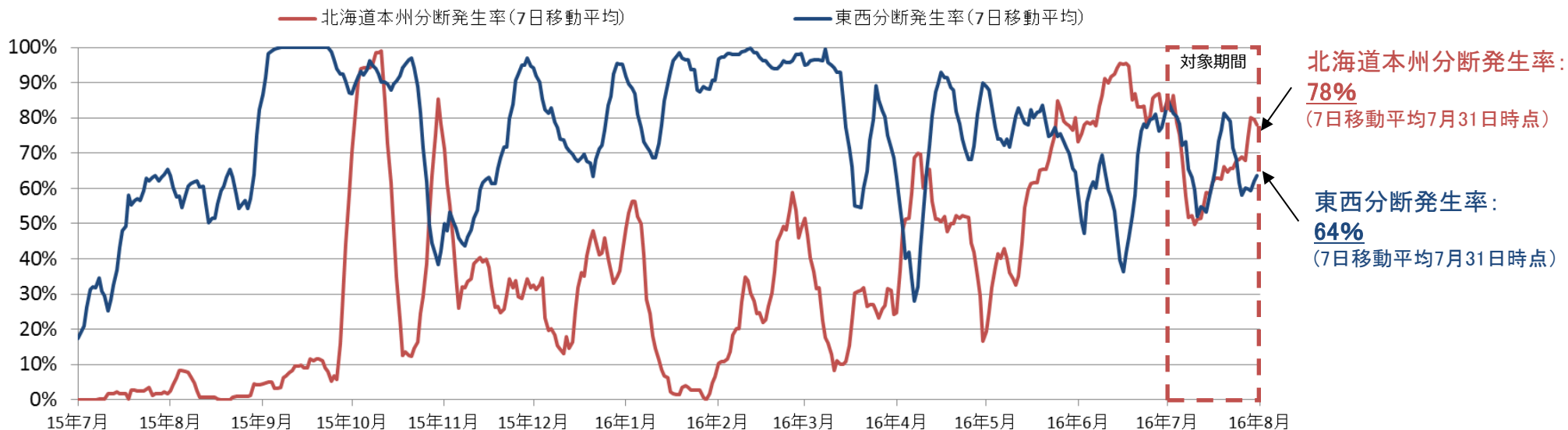
※ 表中の数値（パーセント）は、各連系線における市場分断の発生率（各月の取扱い商品数（30分毎48コマ/日 × 日数）のうち、市場分断が発生した商品数の比率）を示す。

※ 市場分断の発生には、連系線の作業が原因で発生しているものを含む。

1 3 . 北海道本州及び東西の市場分断発生率

- 2016年7月においては、北海道本州の分断発生率（下図の赤線）は7月上旬は減少傾向にあったものの、その後増加しており7月末においては78%となっている。また、東西の分断発生率（下図の青線）は増減を繰り返し、7月末においては64%となっている。

北海道本州及び東西の市場分断発生率の推移
(2015年7月1日～2016年7月31日)



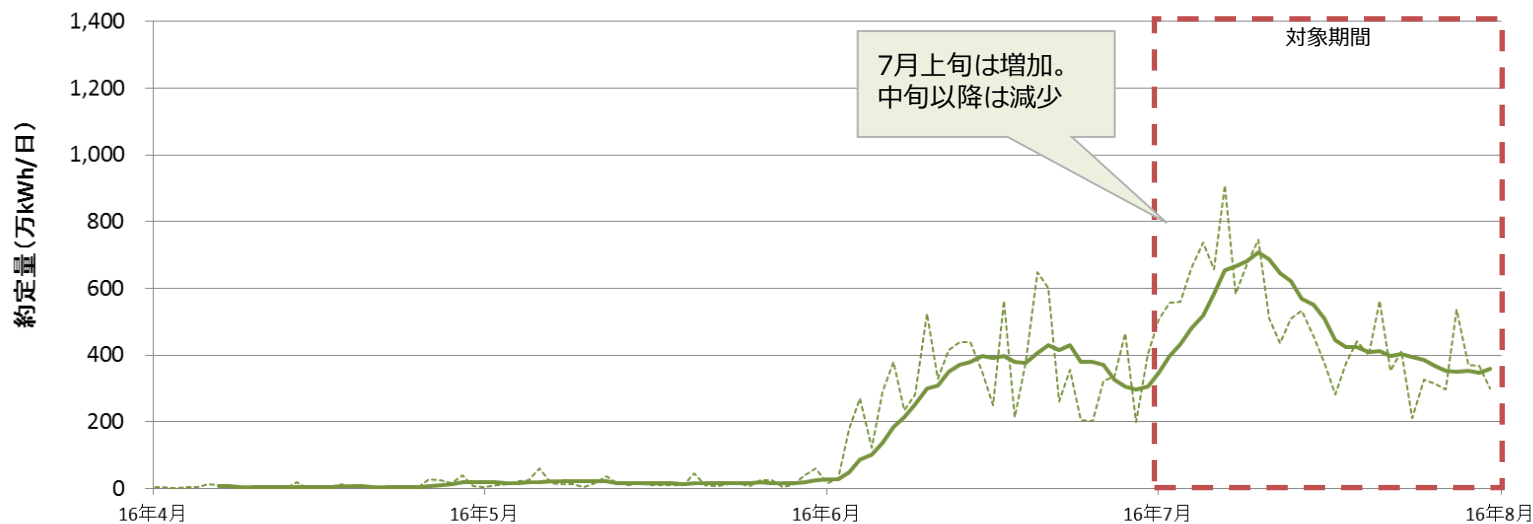
※ 表中の数値（パーセント）は、各連系線における市場分断の発生率（各月の取扱い商品数（30分毎48コマ/日 × 日数）のうち、市場分断が発生した商品数の比率）を示す。
 ※ 市場分断の発生には、連系線の作業が原因で発生しているものを含む。

14. 時間前市場の約定量

- 2016年7月における時間前市場の約定量の合計は1.5億kWhであった。7月上旬においては約定量が増加したが、中旬以降は減少傾向にある。

時間前市場 約定量の推移
(2016年4月1日～2016年7月31日)

----- 約定量 ———— 約定量(7日移動平均)



主要データ

約定量 (2016年7月1日-2016年7月31日)
1.5 億kWh

※ 2016年4月より、時間前市場は4時間前市場（シングルプライスオークション方式）から1時間前市場（ザラバ方式）となった。市場が異なるため、2016年3月以前のグラフ及び前年同時期対比の値は掲載していない。